

年少組参照、但し年長組であるから銘々に工夫させて作らせる様に種々観察の範圍をひろめ誘導しやう。そして一週間は七日、一ヶ月は三十日と三十一日とあること、二月は二十八日である事もみ出させやう。

### 動物寫真

動物園をつくる豫備の觀察。動物園に行けたらそれが一番いゝ。その代りであるから動物の繪でも寫真でも、動物の生活をかいたものであり度い。話合ひ乍ら、けもの、鳥、爬蟲類、魚等の種類をわけて注意し、それ等の差を言はせるのもよい。

### 雪

雪がふつた朝、さら／＼のものを蟲めがねでのぞかせ、雪の、花のやうな形をみせやう。

## 第二週

手

技

## 世界各國の國旗、土人の風俗畫

動物をつくつてゐる種々な日本にはゐないのが出て來、他國の地名が出てくる。そこでまだ地圖は觀念としてむづかしいからただいろ／＼なお國があること、その國々の風俗、國旗なごを、かいた繪や寫真をみ乍ら話し合ふのも、もう小學校へ行く子ども達にはよいことであらう。

## 第三週

霜柱、水仙(年少組参照)

水仙は葉、莖(地下、地上)根の部分も觀察させやう。

## 第四週

冬の芽(年少組参照)

ふくじ草

冬咲くつよい花にして、この可愛いらしい花をお部屋に置いて観るのもよいことであらう。詳しくみることはない。

### 第一週

自由畫 動物 二回

ハトロン紙の大判に毛筆で幼児の自由に動物を畫かせる。

製作 小鳥の小屋、巢、玉子

誘導保育案による動物園をつくる。先づ小鳥の小屋、

巢、玉子をつくる。

粘土 小鳥ミ卵 二回

數人の幼児、或は全部の幼児につくらせてもよい。

### 第二週

自由畫 二回

動物畫を見る。次の時には幼児に自由に畫かせる。

粘土 自在 一回

ぬりゑ ツバキ 一回

製作 四回

兎、小豚、小山羊

みかん箱なぎの様な小さな木箱を利用して顔だけ別の木でつくつてつける。ベニヤ板なぎの板の上にクレオンで

動物の畫をかゝせてそれをミシンノコギリで切る。

### 第三週

自由畫 動物 二回

自由畫で各自の帳面に動物をかゝせる。

鈿仕事 水仙 一回

水仙の花を花瓶に挿して各自に觀察させてそれを切り紙

にする。これは年少組の材料にもあるが年長組は年長組

として數も多く、作り方も細くする事になる。

粘土 動物 一回

大きな動物を各自がつくるわけにも行かないので、一方

では誘導保育案で動物の大きなものをつくつてゐる。そ

の傍これをしてしないものだけに粘土の動物をつくる事にす

る。

製作 四回

猿

木の葉

縞馬

猿は平面の板の上に全身をかいて、それをミシン鋸で切

る。

猿の登る木の枝は庭の立木の一部を切つて使ふこよい。  
葉は緑の模造紙を切りぬいて表裏一枚の間に針金を入れて葉柄にしておく。

#### 縞馬

石油箱位の大きさの木の空箱を胴として、普通の角棒が丸太棒で四つ足をつけて體全體を黄色にぬつて、乾いた後で墨で縞をかゝせる。

#### 第四週

自由畫 着物の模様

お人形の着物の模様

ぬりゑ モヤウ 一回

製作

節分のお面

お三寶

親豚、親山羊、柵

動物園のくりの間に節分の行事を入れて製作する。

鬼のお面、お三寶なき畫用紙でつくつて豆まきの支度を

する。

#### 親豚

親豚は釘樽なきの空樽がよい。これに頭と足をつける事はこれ迄の動物と同じである。

#### 親山羊

親山羊は石油箱位の大きさの胴が丁度よい。これに頭と足をつける事は前と同じ。

#### 柵

動物の大きに従つて高くつくり或は低くつくる。  
動物や柵なきの色ぬりは同じ時に塗つた方がよいのでかためてぬる。

もの思ふこ過ぐる月日も知らぬまに

今年もけふに果てぬこかきく

(後撰和歌集より)

皆様よいお年をお迎への程 祈り上げます。

(編輯部)